

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171900259		
法人名	株式会社 カネット・ふれあい		
事業所名	ふれあい多居夢戸田		
所在地	埼玉県戸田市市川岸3-5-1		
自己評価作成日	平成24年12月1日	評価結果市町村受理日	平成24年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/11/index.php</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	平成24年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

普段の生活にて「できること」は入居者様に行っていただくようにしており、身体機能の維持を目指したケアに取り組んでおります。  
自尊心を尊重し、個人のペースに合わせた穏やかな生活が送れるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・一人ひとりの希望に沿ってスーパーマーケットやショッピングモールでの買い物や外食、日課の散歩や浅草・巣鴨などへの外出、又、一人で居室で過ごす時間を大切にされるなど、利用者個々の生活リズムに合わせ、その人らしく、のびのび、穏やかな生活を過ごされるよう、職員全員でケアされている。  
・ご家族アンケートでも「親身になっていろいろなことを考えてくださり、安心して全てをお任せできる」、「入居者の目線に合わせ腰をかかめ会話をしてくれる」等のコメントがあり高い評価と信頼が得られている。  
・平成23年度は厚労省通知の要件を満たしていることから、外部評価の実施は緩和されたものの、自己評価をもとに、事業所としての課題を設定され、散歩時の地域住民との挨拶励行、小学生や民生委員、消防団との関わりが拡大するなど、地域との連携関係を深められ、目標を達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	共有スペース、各フロアに理念を掲示し共有している。覚えやすい理念にすることで職員一人一人が実践に繋げやすい。	職員全員で意見を出し合って作成した理念のもと、利用者が住み慣れた地域で、その人らしく、ゆったり、のびのび過ごされるよう、気配りされた利用者本位のケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	毎年継続して季節のイベントや盆踊りなどに参加している。また、地域のボランティアを積極的に受け入れ、大正琴やハーモニカ演奏会など実施して頂いている。	日課の散歩の際には地域の人たちと挨拶を交わされたり、小学生やボランティアとの交流、七夕まつりや盆踊りで地域住民と交流されるなど、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう基盤づくりに取り組まれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や地域の行事に参加した際に、認知症高齢者と触れ合っていたり、認知症に対する支援方法を理解していただけるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者や施設の現状報告、家族・民生委員等の参加者による意見・要望を各ホーム長に伝達・共有し、サービスの向上に繋げるよう努めている。	定期的に開催され、家族も輪番で参加し、事業所からの報告だけではなく、防災対策や救命救急法の訓練を行うなど幅広い議題を取り上げられている。参加者の民生委員の提案で、地域消防団との合同避難訓練が実現されるなど、事業所の運営にも活かされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の来訪時や運営推進会議にサービス状況や現状を説明している。	市担当者は運営推進会議にも出席され、事業所も地域密着型サービス事業所の連絡会に参加するなど、相互交流されている。また、認知症サポーター養成講座を開催したり、介護相談員の受入をするなど、連携関係も持たれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	建物の構造上、玄関・エレベーターボタンが施錠されているが、身体拘束について年2～3回身体拘束廃止会議と身体拘束、高齢者虐待に関する勉強会を実施し、身体拘束をしないケアに努めている。	「ちょっと待ってはダメ」との考えで、ケアが行われ、職員間では「言葉の端々に気をつけよう」などの話し合いをするなど、細かいことであっても注意が払われている。身体拘束廃止会議を中心に勉強会も行われ、身体拘束に頼らないケアが実践されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束・高齢者虐待について年2～3回身体拘束廃止会議と身体拘束、高齢者虐待に関する勉強会を実施し、高齢者虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修案内や資料を配布し、学ぶ機会を設けているが、研修に参加する職員は少ない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に重要事項説明書・契約書を読み合わせし、その中で疑問点や不安に思うことを確認している。また意見・要望は入居後のサービスに反映させることなどお伝えし、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議にてホームの現状を報告すると共に、意見・要望をお伺いしている。また、玄関・共用スペースに意見箱を設置し、意見を収集するよう努めている。	利用者とは日頃の関わりの中で傾聴するよう努められ、特に、夜勤時にはじっくり時間をかけ対応されている。家族とは運営推進会議や面会時、その他電話連絡で、こちらから働きかけをすることで、意見・要望を聴きとられ、事業所運営に反映されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月ホーム長会議を実施し、ホーム長より各フロアの職員の要望や意見を確認している。また日頃より職員からの相談を受けるようにしている。	定例会議やミーティング時に意見・提案を聴きとられている。言いやすい環境がつけられ、活発に意見・提案が行なわれ、備品購入や安全対策など具体化されている。その他、本部からの個別アンケートも実施され、よりサービスの質の向上に結び付けられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員に居室担当や業務担当など役割を担っていただき、やりがい・向上心を持って働けるよう努めている。また希望休や希望勤務など柔軟に対応し、就業しやすい環境作りに努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各ホーム長に職員の能力や力量を確認し、各職員のスキルに合わせた研修に参加していただいている。また日頃の就業や行事にも指導を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市主催の地域密着型サービス事業者の管理者会議にて、各事業所の現状や課題、取り組み等を報告し、会議を通じて交流している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族に入居前に発症シートの記入をお願いし、入居者の生い立ちや生活歴など把握すると共に、面談を通じて不安に思っていることや要望を伺い、安心して入居していただけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、面談時に家族が不安に思っていることや要望を確認し、納得していただけるまで一つ一つ説明し、不安の解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に家族に記入していただいた発症シートや一日の生活の様子、入居者の性格や趣味等を参考に、また面談の中で入居者や家族の意見の中で、必要とされているサービスを見定め、対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各入居者の好む家事を見極め、その人に合わせた家事を職員と分担し行っていたことで、お互いに頼り頼られる関係が築けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事など参加していただけるよう案内を出し、入居者との面会の機会を設けている。また面会時には普段の様子を報告すると共に、問題に対して相談をさせていただき、一緒に解決していけるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人等、自由に面会・外出していただいている。また家族と外泊・外出中に馴染みの場所へ行かれる方もいる。	入居前に店をやっていた利用者、商店街の人やお客様が来所されるなど、古くから友人・知人の面会、電話や手紙のやり取り、家族の協力を得てのお墓参りほか、馴染みのレストランに食事に出かけるなど、これまでの関係が途切れないよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食器拭きや掃除等の家事、壁面飾りの創作レクなど職員も一緒に行い、一人一人とコミュニケーションを図ると共に、入居者間の会話の橋渡しをする等、関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ状況の把握に努め、その方に必要なサービスや施設の利用を提案することがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時にその方の今までの生活習慣や趣味等を伺うと共に、入居後の本人・家族との面談や日頃の様子を拝見する中で、カンファレンスなどを通じ本人へのケアを検討している。	思いや意向の把握が難しい利用者については、日頃の関わりの中で、時間をかけ、表情や仕草などから汲みとるよう努めている。その他、選択肢を用意し、自己決定を促したり、職員間で情報交換されるなど取り組み、利用者本位に検討されている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に発症シートを記入していただき、その方の生い立ちや生活歴、生活環境、趣味等を把握すると共に、今まで利用されていたサービス関係者に状況を伺い、これまでの様子を把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りや記録の確認、フロア会議等で情報を収集し、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者を中心に、居室担当者やその方に関わる職員全員で、フロア会議などでその方の現状について確認すると共に、ケアを見直しや新たな課題について話し合い、介護計画を作成している。	利用者や家族には日頃の関わりの中で思いや意向を聴きとり、医師・看護師の指示も受け、関係する職員全員でカンファレンスを行ない、現状に即した介護計画が作成されている。また、家族との面会時に計画内容を説明したり、郵送するなど、同意確認にも努められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に排泄時間や内容、食事・水分摂取量、睡眠時間、バイタル値、経過を記録し、いつでも職員が確認でき、ケアや介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の買物や散歩等、外出希望などを可能な範囲で実施できるよう、柔軟に職員の仕事内容を変更し取り組むよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアによる演奏会などの催しや、地域の催し物(盆踊りや商店街のイベント等)に参加し、地域の一員として楽しみ、生活を送っていただけるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームのかかりつけ医による月2回の定期的な往診にて一人一人の状態の把握が可能であり、緊急時も関連病院が近くにあり対応がスムーズ。また入居前より利用されていた馴染みの医療機関を受診されている方もいる。	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関の選択をしていただいている。専門医等かかりつけ医の受診支援も適宜行われ、医師や家族への必要な利用者情報の提供も行なわれている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日バイタル測定を行い、数値的異常または体調不良、皮膚疾患などみられた際は、訪問訪問時に報告・相談し、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院後、医療連携相談員に状態の確認や退院の時期など、こまめに連絡を取り合い、情報交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、かかりつけ医により家族へ現状、今後の見解について説明をしていただき、ホームでの看取りを希望された場合、事業所のできるケアの説明をすると共に、家族の意思確認を行っている。またケアの統一を図り、チームで取り組むよう努めている。	入居時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後の対応も協力医療機関との連携のもと、方針を共有し、希望に沿った最大限のケアに向け取り組まれている。家族の希望で看取りを行ったこともあり、職員とも話し合い、不安の解消にも努められている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	年1回ペースで定期的に救急隊員指導の下、応急手当の講習を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防隊員による避難誘導、消火器を使用するための消火訓練、自動通報装置の使用方の説明等、年2回実施している。また訓練に関し、運営推進会議にて民生委員など参加者に、消防隊員の指示・見解と併せて報告している。	避難・通報・初期消火などの訓練を定期的に行なわれているほか、夜間の発生を想定しての訓練や家族の参加を得ての救命救急法訓練が行われている。その他、地域の消防団の事業所見学が予定されているなど、地域との協力的体制構築に向けた取り組みが行われている。	消防法に基づく、火災発生時の避難訓練は行なわれているが、地震や風水害などもいつ起こるかわかりません。いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるように備えていくことが重要であり、地震など他の災害発生を想定しての訓練にも取り組まれることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会やフロア会議の中で、声掛けや関わり方等、注意点を話し合い、職員一人一人が自覚し対応できるよう努めている。	言葉かけや居室で過ごす時間を大切にされるなど、利用者の人格を尊重した対応、個人情報のある取り扱い、排泄や入浴時の羞恥心に対する配慮など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の暮らしの中で一人一人と関わり、話を伺う中で、その人の希望や思いを確認し支援している。またレクなどの参加の可否についても必ず確認し、その人の気持ちに合わせ支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の体調や気分などを考慮し、起床・食事・入浴など、その人のペースを大切に、希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	モーニングケア時に洗顔・整髪・口腔ケア・洋服選びを入居者と一緒に行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっているが、その人の食べ物の嗜好に合わせ、個別で対応している。また職員と一緒に食器の片付けや食器拭きを行っている。	利用者個々の力に合わせ、盛付けや後片付けなど、職員と共に行っている。献立も利用者の希望を取り入れるほか、誕生会などには好物の寿司やケーキ、その他、ショッピングモールに出かけて甘い物や外食を楽しまれている。また、食事や栄養についての研修も行なわれ、健康面や料理の見栄えなど、こまかな配慮がなされている。	食事は利用者だけでなく、家族に対しても関心の高いことであり、家族に献立表を送付するなど、事業所での日常生活への理解を深めていただき、サービスレベルの向上とより深い信頼関係を築かれることを期待したい。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全員の食事・水分摂取量を記録し、体重の増減に応じ、食事量の見直しや水分摂取の少ない方へこまめに提供するなど支援している。またかかりつけ医の指示・助言を取り入れ、食事・水分量の増減を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立されている方には声掛けにて促し、実施困難な方については、ポリドント等による消毒や歯科医師の指導の下、口腔ケアを実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を利用し、一人一人の排泄の間隔を把握することで、適切な排泄が出来るよう支援している。また訴えることができない方の間隔を見定め、声掛けやトイレ誘導を実施している。	できるだけトイレでの排泄を目指し、排泄パターンを職員同士で、こまめに話し合い、利用者個々のパターンや習慣に合わせた介助をすることで、自立支援に取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やイージーファイバーなど排便を促す飲食物や、腹部マッサージ、散歩等運動を取り入れ、便秘予防に取り組んでいる。また長期排便の無い方や便秘傾向の方については、かかりつけ医と相談の上、必要に応じて下剤等を服用していただき、便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前にバイタル測定を行い、体調が良ければ本人のペースでゆっくりと入浴できる時間を設けている。また季節に合わせて、ゆず湯や菖蒲湯など楽しんで入浴できるよう支援している。	入浴日と時間は設定されているが、利用者の希望や体調を考慮した支援が行われている。ゆず湯・しょうぶ湯など季節湯のほか、長湯を楽しめるよう配慮されている。又、全7フロアの浴室にリフトが整備され、利用者個々の力に合わせて、職員複数での介助体制をとるなど、安全面も配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活習慣を大切に考え、夜間眠れない方には無理に就寝を促さず、眠くなるまで職員とテレビを観たり会話するなど個別に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の説明書を個人記録と一緒にファイリングし、職員がすぐに確認、把握できるよう努めている。また薬の変更については家族に報告し、情報を共有するよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生きがいのある日常生活を過ごしていただく為、一人一人の生活歴や趣味を把握し、その人の力を活かせるレクや家事活動などを提供できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	近隣の散歩、スーパーやショッピングモールでの買物、リクエストに添った外食など、その人の希望を把握し、出かけられるよう支援している。	事業所前の親水公園への散歩、歩行の難しい利用者もベランダや庭に出て、外気浴をしていただくよう配慮がなされている。また、一人ひとりの希望に沿ったスーパーマーケットやショッピングモールでの買い物や外食、浅草や巣鴨に出かけるなど、外出の機会を多く持つよう支援されている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方のみ少額の金銭を所持していただき、外出の際は本人に支払をしていただくよう支援している。ただし、金銭に対する執着や物取られ妄想、不穏になる可能性がある場合は、ホームにてお預かりしている一時金で支払っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	可能な方は携帯電話を所持していただき、いつでも家族と連絡が取れるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部の掃除は毎日行い、清潔の保持に努めている。また季節に合わせた壁面飾りや花などを採り入れ、季節を感じて頂ける工夫をしている。室温・湿度管理は、温度・湿度計で確認し、快適に過ごして頂けるようエアコン等で調整している。	利用者にとって不快や混乱を起さぬよう、室温・湿度・採光など、きめ細かな配慮がとられている。又、季節感ある花や絵、クリスマス飾りほか、楽しい思い出の写真などが飾られ、明るく清潔感のある共用空間づくりがなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブル席以外にもソファがあり、くつろいでテレビを観たり、足を伸ばしてリラックスして頂ける空間を設けている。また廊下にはソファや椅子を設置し、気軽に入居者同士で会話をして頂いたり、一人で思い思いに過ごして頂けるよう工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンス等の家具や、家族の写真を持ち込んでいただき、快適に安心して暮らしていただけるよう工夫している。	馴染みの寝具やタンス、好きな競走馬の写真、好みのぬいぐるみや絵画などが持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう工夫されている。又、毎朝掃除の時間が設けられ、居室と共有スペースを含め清潔維持に努められている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室前には入居者が見やすい位置に表札をつける、またドアを開けても室内が外から見えづらいように、暖簾を設置するなど工夫している。		

(別紙4(2))

事業所名 ふれあい多居夢戸田

## 目標達成計画

作成日: 平成 25年 1月 11日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	年2回火災を想定した防災訓練は行っているが、地震や風水害の訓練は行ったことがない。	火災のほか、地震や風水害を想定した訓練を実施し、災害に備えていく。	年2回の防災訓練の内、1回を地震や風水害を想定した訓練を実施する。	12ヶ月
2	40	ホームの食事についてご家族の関心が高いが、十分な情報提供が出来ていない。	家族にも食事内容を知っていただき、サービスの向上につなげる。	・年4回発行している“ふれあい便り”に行事と併せて食事の写真を掲載し、情報を提供していく。 ・運営推進会議等で、ご家族や地域の方などの意見を取り入れる。	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。